

10kWレーザー加工機導入

かねよし 受託加工を迅速化

【さいたま】かねよし（埼玉真川口市、吉田電一社長、0488・2533・0001）は、今春をめぐりに10kWの高出力レーザー加工機を本社工場に導入する。各種受託加工業務のスピードアップおよび高品質化を狙い、10kW級の導入例は国内ではほとんどないという。設備増強の一方で、IoT（モノのインターネット）や人工知能（AI）の利活用による業務の効率化を推し進め、事業の拡大・発展につなげる。

IoT・AIで効率化推進

導入するのは独トル製（吉田社長）の「トルン」製のファイバ伝送式ディスクレーザー加工機。かねよしの工場では現在、トルン製や国内メーカーのレーザー加工機が多数稼働しており、顧客約1500社からの少量多品種の機械部品加工などの注文にこたえている。購入価格はベンダー加工機などと合わせて約3億円。同社ではIoTやAIの利活用にも力を入れており、その一つとしてベトナムのAI会社（ベトナムのAI会社）に依頼し、人手を要し手間暇がかかる見積もりや経理業務のAI化を進めている。新鋭機とIoT、AIにより、高精度・短納期・多品種生産システムを進化させ、受託加工事業をさらに伸ばしていく。

現有設備の最大出力8kWを上回る10kW機を入れるのは「品質とスピードが求められ

る。現有設備の最大出力8kWを上回る10kW機を入れるのは「品質とスピードが求められ